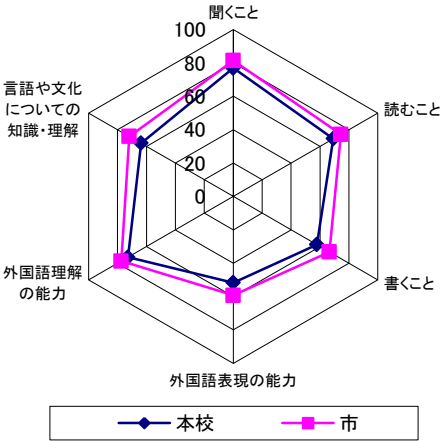


宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	76.9	81.4	76.1
	読むこと	69.2	74.4	71.2
	書くこと	57.8	66.5	60.7
観点別	外国語表現の能力	51.6	59.3	51.7
	外国語理解の能力	72.9	77.5	72.8
	言語や文化についての知識・理解	63.8	72.0	69.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	●市の正答率を4.5ポイント下回っている。昨年度よりも更に下回っている。 ○絵を見て答える問題では、理解できた生徒が多かった。 ●対話を聞いて適するものを選ぶ問題では、理解できない生徒が多かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・説明や人の感情などを聞いて答える力が弱いので、英語で聞かれて英語で答える活動や、場面設定をし言語材料の機能をはっきりさせた対話活動を今後更に授業の活動に取り入れる。
読むこと	●市の正答率を5.2ポイント下回っている。昨年度は4.1ポイント下回っており、昨年度よりも若干下回っている。 ●文字による情報を読み取る力は聞くこと以上に育っていない。教科書レベルの語彙をしっかりと身に付けられていない状況が考えられる。	・語彙力を付けさせるため、単語テストを行う。 ・対話文形式の問題は、対話活動と合わせて、対話のポイントを見つける読み方を指導する。 ・表やグラフなどを用いた読み物教材を活用し指導する。 ・長文の問題は、段落読みやキーワードを追う読み方を教科書等を用いて授業で指導する。
書くこと	●市の正答率を8.7ポイント下回っている。 ○昨年度は9.2ポイント下回っていたので若干の改善が見られた。 ●並べ替えや条件英作文・自由英作文の問題では、基本文が定着していない状況が考えられる。	・基本文の定着のために、基本文テストを行う。 ・言語材料の定着のために、ドリル形式の学習を授業で行う。 ・言語材料の活用のために、場面設定し自分の考えや思いを書く活動を授業で行う。